

新聞雜誌

明治壬申正月

第廿七號



定價二匁

特	別
18	
787	
27	



緒言

允天下ノ物事日ニ新ナルニ我未ダ見聞ヒサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ  
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑恠ムヲ多ク竟ニ我ヲ  
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ  
 太政ノ事ヲモ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシ斯テハ逢カクキ世ニ生レシカヒ  
 ナシ今官許ヲ受テ新聞紙局ヲ開キ 太政ヲ始メ諸府縣ノ變革又ハ  
 里巷ノ瑣事外國ノ異聞ヲ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中ノ  
 人々ト新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頑ナル心僻メル事ヲ棄シトテナリ願ハ此冊子  
 ヲ讀玉フ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚  
 ベク喜ベキ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫ハ疑ノ笑ア  
 リト知玉ハサテコソ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ベケレ



新聞雜誌第七號

明治五年壬申

○正月十一日東南校開講<sup>カクコウ</sup>文部省中ニ於テ祝席<sup>シユセキ</sup>ヲ設ケ  
 ラレ御雇入ノ外國教師廿餘名ヲ招請<sup>シヨウケウ</sup>シ奏樂并酒菓ノ  
 饗應アリタリ

○今般東京府下ニ專門學校ヲ設ケラレ理學、化學、法學  
 重學、星學傳習仰付ラル、ニ付志願ノ者ハ右科目ノ内  
 銘々見込ノ科相認メ正月廿九日ヲ限リ南校工可願出  
 但シ英、佛、蘭、獨、乙、學ニ論ナク學力優等<sup>イウトウ</sup>ノ者并是迄譯書  
 ニテモ右科目ヲ學ビ居候者ハ試業ノ上入學差許サル

、旨文部省ヨリ諸府縣工御布告アリタリ

○東京深川龜住町十一番地店借喜十ナル者紙屑買ヲ  
 渡世トシ微カナル烟ヲ立暮シケルニ舊臘府下窮民工  
 金子貸渡ノ御沙汰アリシニ付金五兩拜借致度旨町用  
 掛リ確田利介エ申出シテ俸在三當年十歳ナルカ煩リ  
 ニ異見ヲ加ヘ此金正月十日迄返納難相成キハ官エ  
 對シ重々御厄害ヲ懸クルナレバ難渡ヲ忍ビ餅鮭ナ  
 ト不喰比拜借不致方可然ト諫ノラレ御免ノ儀願ヒ出  
 シカ折柄金子一同工割渡ス所故無據借用致シ歸リケ  
 ル翌廿八日早朝父子同道ニテ又々利介方エ来リ何分

ニモ忤不兼知ユヘ返納致度旨申速ケルニ付利介ヨリ  
 モ庄三へ御恩借ノ種々申聞ケレト強テ辭退シ只今  
 返上難相成儀ナレバ此方ニ御預リ置来春一同御返シ  
 被下度旨泣テ断リニ及ビシ故是非ナク町役人預リ置  
 タル由利介モ庄三ノ志奇特ナルニ感シ餅鮭其他ノ品  
 ヲモ遣ハシ其趣委細府廳ニ申立ニ及ビントリ  
 ○正月七日榎本金次郎大島圭介松平太郎永井玄蕃澤  
 太郎左衛門新井郁之助其他九人ノ者禁獄御免ニ相成  
 リヌリ尤モ榎本一人ハ親類預ケ被仰付タル由孰レモ  
 幽囚中志操正シク殊ニ榎本ハ屑紙撚紙ノ類ヲ以テ煮

氣諸器械ノ雜形ヲ製シタリト云

○佐渡島内ニ於テ現今堀出ス所ノ鑛坑セケ所職人ノ數四千人餘トシ近頃又鑛石ヲ破碎シ且ツ金ヲ製産スル器械ヲ裝置スル為メ外國人「コウル」氏御雇入相成タリ是迄木槌ヲ以テ打シユハ鑛石ノ破碎甚ダ粗末ナリシニ新タニ備ヘラレシ器械ハ尤モ至當ノ使用ニテ一日間ニ二十トン餘ノ鑛石ヲ破碎シ得ベシト尚不遠シテ他ノ金鑛具許多鑛物ノ種類ヲ堀出ニ至ルベシト云○當年「埃地利」展覽會ハ頗ル盛大ノ舉ト見ユ我邦ニ於テモ大隈參議寺嶋外務大輔井上大藏大輔御用掛リ被

仰付タル由

○上海新聞ニ云昨年「フランス」一揆ニ付大勢ノ人ヲ殺シ中ニモ天主教ノ徒ヲ害セシ事最モ烈シカリシトソ初メ蜂起ノ時ヨリ滅亡ニ至ルマテ官軍ニ誅セラレタル者凡十萬餘人婦女小兒マテモ助カル者ナシ抑此騷動ノ抑元ヲ尋ヌルニ全ク自主ノ二字ヨリ起リシナリ法蘭西朝廷一變シテ群臣皆自主ノ名義ヲ唱ヘシヨリ愚昧ノ賤民共皆謂フニ此ヨリコソ人々自由ナラン以後ハ支配ヲ受クルトモナク軍役人夫ニ使ハル、トモナク各境界ヲ守リ互ニ抑制スルトナカラント「麥亞」彼國重

ナラン 堅ク宜シカラザル者ヲ速ケレバ賤民共コレヲ  
 恨ミ齒ガミヲナシ旗ヲアケテ競ヒ起リ迎モ法京ニハ  
 敵シガタク籠城モ叶ヒ難キハ顯然ノ一ナラバ只城ヲ  
 枕ニ打死シ繁華ノ一城ヲ不殘燒捨テ、コソ快カラシ  
 ト決心シタリ依之一度ヒ火ノ付キタル所ハ皆焦土ト  
 ナリ城中諸役宅並部屋々々三分一ハ燒失シタリ且ッ  
 礮強水ト云ルモノヲ猛火ノ中ニソ、キタレバ火餘弥  
 烈シクシテ俄ニ打滅シ難ク官軍遂ニ城内ニ攻入り生  
 捕ノ賊徒夫々誅戮スル隙モナク不殘火中ニ追込ミ婦  
 女子ヲ捕ヘ行カガル者ハ倒シマニ曳或ハ劔ニテ之ヲ

突キ慘忍ノ体目モアテラレス是實ニ自主ノ一念ヨリ  
 事ヲ誤ルモノニシテ歎息スベキトニ非ズヤト云々  
 シヤツバンヘラルド新聞節譯

日本ノ火鉢ヲ用ルハ尤モ健康ヲ害スルヲ屢々回想  
 シタリ○歐羅巴製ノ家屋ノ如ク空氣密閉セル様ニ築  
 造シタル日本家屋ニ概ノ火鉢ヲ用フレハ人民幾千人  
 斃死スルヲ以テ之ヲ用ユルヲ禁止スベシ○多年來  
 學問上ノ論ハ捨テキ現ニ斃死シ或ハ辛フシテ死ヲ免  
 カレタル者アルニ因テ恒ニ之ヲ考案スルニ熾タル未  
 炭ノ烟ハ動物生体ニハ害アル者トス○西三日前ニ辛

フシテ死ヲ免カレタル者アルヲ聞ケリ則チ一人小室  
内ニ烈火ノ火鉢ヲ置テ讀書シテ居タリシニ一友人  
之ヲ看テ彼ノ知覺ナキヲ知タリ今暫ク之ヲ心附カガ  
ル時ハ其人必ス死セシナラン○日本人ハ數年ヲ待  
ズシテ室内ニ烟突ヲ用ヒ得ルヤウノ家屋ヲ建設スル  
疑ナリルベシ

○東京麹町ニ寓セル竹澤整青山三郎友人某カ東海道  
ニテ不平ノ一事ヲ聞見セリトテ其說話ヲ記セシ畧ニ  
云三河國渥美郡飯村ハ二軒茶屋本郷中嶋茶屋町ノ四  
區ニ分レ總高四百八十八石三斗三升三合即今里正ヲ

始メ一村ノ富農共ニ役負ニ列ナル輩十三名アリトソ  
然ルニ此村古ヨリ一ツ六分五厘ノ過免ヲ取立テ役負  
ノ者相繼テ之ヲ私有シ来レリ故ニ富ハ益富貧ハ益貧  
ナリ其餘年々租稅及ビ雜費ノ會計不正ノ件々推テ可  
知尤モ此過免ノ事徃々村民疑惑ヲ生シ一村落會ニ帳  
面清算ノ儀其官へ出訴スルヲ殆ト百七十年間幾百回  
ナルヲ不可知然ルニ正ヲ始メ富家ノ姦民官吏ニ賄  
物ヲ贈リ因循竟ニ今日ニ至レリ今般維新田別改正ニ  
仍テ前条過免ノ事始テ顯然貧民涕騰シ官ニ訴テ其邪  
正ノ裁斷ヲ乞ヒ傍ラ徒前掠奪スル所ノ租稅返辦ノ

フ求々此金九ソニ千金ナリトソ縣吏曰フ御一新ニ付  
 既往ハ不可咎ト從足彼里正等倍々カヲ得テ履使不至  
 一ナク報ルニ從前貧民へ貸与セシ田畑ヲ引揚ケ及ビ  
 年々私稅ノ殘米八十俵餘至急ニ皆濟セシ一ヲ督責ス  
 故ニ一時失產ノ者凡ソ五十餘軒家族殆ト三百人老者  
 ハ飢餓シテ病ニ卧シ壯者ハ四方ニ散セントシ號哭ノ  
 声野ニ滿チ其景况最モ憫然ノ至ナリ予竊ニ謂フ如斯  
 不正ノ事恐クハ此一縣ニ限ラサルベシ畢竟諸道ニ新  
 縣ヲ被<sub>レ</sub>為置ニ付舊縣ノ姦吏共其免職ヲ私怨シ恣ニ私  
 欲ヲ逞シ弊害ヲ釀ス一ニテ實以 朝廷ノ御趣旨ニ悖

リ天下制度ノ闕典斯ル姦吏愚民其罪萬死モ猶輕シ仰  
 願バ民政當路ノ君子深ク洞察厚ク注意シテ以テ萬民  
 其所ヲ得セシムルノ 敬慮ヲ空フセサル一ヲ冀フ  
 ノミト云々

○北白川宮薨去ニ付正月十二日ヨリ三日ノ間歌舞音  
 曲等停止ノ旨御布令アリタリ  
 ○神奈川縣第三區中選卒荒井實大谷大造横濱姿見田  
 二於テ米人六名酒狂乱暴ノ者ヲ巧ニ取鎮タルニヨリ  
 其盡カヲ賞セラレ紅章ヲ與ヘラレシ由猶同縣三百四  
 名ノ選卒ニテ昨十二月中内外ノ盜賊共外酒狂乱暴ノ

徒都テ五百五十八人ヲ捕押ヘタリト云

○昨未年中横濱港諸稅銀其外取立高畧表

貳分金六拾九萬千四百九拾九兩三分百三十四文二分

洋銀四萬九千七百貳弗九拾五セント五分

壹分銀一萬八千百七拾兩百七拾七文五分

新貨六十五圓三十六錢五厘

壹朱銀四萬三千八百九拾一兩貳分四拾五文五分

金札千九拾兩百六拾五文七分

○昨未年中當府ニ於テ死刑ニ處セラレニ無籍ノ徒絞罪斬罪共合テ八十二人ノ屍ヲ東校ニ於テ解剖セリ其

内十二月ニハ死刑ノ者最モ多クシテ五十三人ニ至レ

リ此科專務ノ官員田口和美晝夜ヲ廢セス生徒ト共ニ

勉勵シ外國ニ教師ノ教示ヲ受ケ骨、靱帶、筋、動脈、腦髓、脊

髓、耳、内臟等ヲ精密ニ解キ盡セリト醫學ノ進步推テ知

ルベシニ教師モ大ニ和美ヲ稱譽シテ後來必ず解剖ノ

教頭トナルベシト云ヘリトソ

勢州竹川竹齋翁告諭ノ文ニ寄セ壬申大小曆ヲ綴

リタリ傳聞ノ儘左ニ附ス

神代以來連綿タル 大嘗會モ無滞被<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>祭<sub>レ</sub>殊ニ寒氣稟

烈當年豐熟太平無變之事無疑ニ附<sub>レ</sub>以復古ノ御政体



厚ク致体認左ノ三ヶ条謹テ可相守事

社司社掌人撰無字擯尔候事

破戒放蕩之僧不可使寺任事

散髮脫刀畧服可為勝手候事

右其身分ニ應シ三条之内致諸記居候ハ、人心月々大

小事無差支事 大小者

○蜂須賀茂昭近日洋行セル由ニテ此頃夫妻共ニ洋服

ヲ著シ馬車ニテ頻リニ市街ヲ往来セリ

新聞雜誌第七號 終

報告

○語學師劉德夫校

京都中學藏板

初編既刻

獨逸國ノ文字各國ニ魁タルハ夙ニ頭著スル所ナリ

然ルニ其語言文章我邦ニ流傳スル未ダ英米ノ如ク

ラズ幸ニ昨冬京都府中學ニテ北獨乙人劉篤兒夫ヲ

語學教師ニ雇入アリシニ劉氏性温和ニシテ諄々善

教工語音最モ純粹ナルヨシ加之英蘭佛ノ語ニ兼通

セリ官真ニ其人ヲ得給フト云ヘシ故ニ生徒日々上

校シテ其歩ヲ進ムモノ多シ官教官ヲシテ助教ノ暇

獨乙蘭對譯字書ヲ翻メ其疑ハシキハ教師ニ質シ生

徒進學ノ階梯タラシメントス今此書初篇既ニ刷刻  
ヲ得タリ次篇ノ如キハ陸續上梓シテ以テ四方諸君  
ノ電覽ニ供センノミ

西京東洞院三條上町

村上勘兵衛

東京日本橋三丁目東川瀬石町

同 出店

發行書肆

○作樂戸先生ノ譯セル西洋英傑傳ハ初二篇既ニ刊行  
セリ其三篇<sup>ナホレガシ</sup>拿破倫ノ傳及ビ附録ノ地圖等モ發兌迄  
キニアリ希クハ諸方ノ君子<sup>チカカ</sup>近次ノ書肆ニ求メテ閱  
覽ヲ賜ヘト云爾

英蘭堂鳴村利助謹白

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス  
其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ハサル處多シ頗久同好ノ人  
何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉  
ハ次第ニ刊行發兌スシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ス載セ玉フ  
可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

一切賣買ノ弘メ等望ニヨツテ出版スル事件

- 一 田地山林家屋舟車等賣買貸借
- 一 新發明巧器及書籍等賣買
- 一 產物器具食品藥劑等一切賣買
- 一 金銀其外ノ貸借等
- 一 諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
- 一 失物尋物等
- 一 店ヒラキ新規賣出等ノ引札
- 一 觀セモノ集會等ノ引札

右等何レモ一行セ三字一度出板價三匁宛同事件ニ度分ハ五匁五匁  
三度分ハ八匁ニテ御引受イタシ候

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出版

當時發兌號ヨリ先キ十冊分引受候向ハ定價ヨリ一割半引

同二十冊分ハ二割引 同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ニ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局へ御引合ニ御相談可申候

本局

東京西國若松町

新 堂

東京西國横山町三丁目

和泉屋金右衛門

東京芝三高町

和泉屋市兵衛

大塚齋橋通

河内屋吉兵衛

西京東洞院

村上勘兵衛

東京日本橋通壹所目

須原屋茂兵衛

大塚心齋橋通

河内屋喜兵衛

大塚心齋橋通壹土町

河内屋清七

東京日本橋釘店

和泉屋杜造

賣弘所